



2015年11月1日発行

発行 仙北市議会
編集 仙北市議会
広報編集・
特別委員会

No.40

SEMBOKU MUNICIPAL ASSEMBLY INFORMATION

仙 北 市

市議会

だより



仙北市議会9月定例会 P 2
予算常任委員会 P 3
一般質問 P 4~9
総務文教常任委員会 P 10
市民福祉常任委員会 P 11

産業建設常任委員会 P 12
決議文・現地視察・控室 P 13
市議会全員協議会 P 14~15
議会報告会案内・編集後記 P 16

9月定例会

第4回

定例会が9月3日～30日までの28日間開催され、平成27年度一般会計補正予算案、決議案など28件が審議され可決、認定されました。

平成26年度一般会計決算認定案、請願2件を継続審査とする事とした。「安全保障関連法案」の撤回、廃案を求める議員提出の意見書案は、可否同数により、議長採決により否決されました。

一般質問には6名の議員が立ち、市財政・クニマス未来館・新庁舎建設・介護保険制度と高齢者の暮らし・少子化対策・マイナンバー制度・若者、子育て支援等について議論が交わされました。

本会議最終日には、市職員が収賄容疑で逮捕された事や市民税等のデータ処理の誤り、平福記念美術館のマスターキー紛失など、度重なる不祥事が相次いだ事を受けて、市長及び教育長による指揮監督の徹底を求める決議案が提出され、全会一致で可決しました。

(決議文は別掲)

一般会計補正額6億1,258万円
補正後予算191億9,658万円に

可決された主な議案

(予算関係は除く)

- 仙北市個人情報保護条例の一部を改正する条例制定について
- 仙北市公益的法人等への職員の派遣等に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 仙北市手数料条例の一部を改正する条例制定について
- 仙北市簡易水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 仙北市立幼保連携型認定こども園条例を廃止する条例制定について
- 仙北市と秋田県との間の行政不服審査会の事務の委託に関する規約制定について

議員提出議案

- 企業誘致の早期実現を求める決議
- 市長及び教育長による指揮監督の徹底を求める決議

平成26年度決算認定

- 平成26年度仙北市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について
- 平成26年度生保内財産区特別会計決算認定について
- 平成26年度仙北市病院事業会計決算認定について
- 平成26年度仙北市温泉事業会計決算認定について
- 平成26年度仙北市水道事業会計決算認定について

議決結果/議員賛否 平成27年 第4回 仙北市議会定例会賛否 (招集日:9/3 最終日:9/30)

議案番号	会派及び氏名等 件名	議決 月日	議決 結果	仁政クラブ					翠鸞会			民政会議			市民 クラブ		会派に属しない 議員			
				黒沢龍己	田口寿宜	佐藤大成	高橋豪	稲田修	小林幸悦	真崎寿浩	荒木田俊一	大石温基	伊藤邦彦	安藤武	門脇民夫	八柳良太郎	小田嶋忠	平岡裕子	熊谷一夫	阿部則比古
議案第87号	仙北市個人情報保護条例の一部を改正する条例制定について	9/30	可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反
議案第92号	平成27年度仙北市一般会計補正予算(第3号)	9/30	可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反
議案第101号	平成26年度仙北市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	9/30	認定	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反
議員提出 議案第10号	意見書の提出について (安全保障関連法案の撤回廃案を求める意見書)	9/30	否決	反	賛	反	反	反	反	反	賛	賛	賛	賛	反	賛	賛	賛	反	賛
請願第6号	伝建群保存整備計画のうち 火除け木戸門復元の早期実現を求める請願書	9/30	採択	賛	賛	反	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛

凡例：賛→賛成、反→反対、退→退席、欠→欠席（議長は、法律に定める特定のケース以外では表決をしないことになっています）

予算常任委員会

9月補正予算の 主な内容をご紹介します



■メガソーラー予定地(黒倉)

地域総合整備資金貸付金

1億8,000万円

メガソーラー整備事業への無利子貸付金。

通知カード・個人番号カード関連事務委任交付

1,004万円

マイナンバー制施行による個人番号交付関連事務の委託費。

国民健康保険特別会計事業勘定繰出金

3,709万円

国保健康保険基盤安定負担金等の増額に伴う国保特会への繰出金の追加。

塵芥処理費

863万円

処分場水質監視用計装機器の更新費追加。

企業誘致対策事業費

433万円

地下水使用による水位への影響調査、用水確保の為に水道管枝線整備等追加。

冬期交通対策費

3億1,431万円

除排雪関連経費の追加。

議論のポイント ～予算委員会質疑から～

メガソーラー事業の地域住民への不安と懸念への対応は？

質問 本事業の概要と経緯について何う？

答弁 昨年の9月に㈱せんぼくおひさまプロジェクトが設立し、709kw、総事業費4億3千2百万円で事業期間は20年間である。

質問 黒倉地区住民の不安や懸念にどのように対応しているのか？

答弁 東北電力から2月に認可が下りたのを受け、遅くなつたが、事業者が3月から3回説明会を行った。3回目に

は、市職員も参加して融資制度の概要について説明している。

安全性についてメーカーの説明では「社会通念上の安全性は十分にあり、有害性は無い。ソーラーパネルが人体や農作物等へ及ぼす被害も無く、懸念される影響はない。通常の雨や雪等の自然現象には耐えられるものと考えられる。しかし、事業予定地住民の不安の声は重く受け止める」

市として、事業者には、安

全性等について責任を持って説明していただく事、不安感を解消するよう努めていただく事を求めている。

質問 同地区は県・市の有形文化財遺跡となっているがその対応を行ったか。

答弁 市教育委員会が県文化財保護室立会いの下で試掘調査を行った。敷地内6箇所約2m行つたが、遺構・遺跡は出てこなかった。県からは工事を行う際は、慎重に行うようにとの指導を頂いている。

誘致企業の現地法人は設立されたのか？

質問 ㈱司食品工業の現地法人は設立されたのか？工場排水は浄化槽によるものか。漁協との協議は行われているのか？

答弁 まだ現地法人は設立されていない。

浄化槽を設置し、地下水で希釈して河川に放流するとの事。9月10日に市長・副市長

◎修正案が提出される

メガソーラー事業を支援する仙北市は、「地域住民の理解が得られるまでは慎重な対応をすべきである」という事

を理由に、貸付金1億八千万円及び、その財源の市債を減額する修正案が提出された。

採決

賛成少数により
修正案は否決された。



仁政クラブ 田口寿宜 議員

産業振興基本条例を活かせ。

市長 市民への理解を浸透させていく。

1、財政について

質問 常に厳しい財政状況にある中で、「選択と集中」のもとにかぎられた財源を有効配分し、本市発展に向け鋭意努力されている。

しかし、今後の地方交付税の配分状況を見てみると、確実に削減されていく傾向にあり、依存財源に頼っている本市財政は、更に厳しい状況になるものと推察する。そうした中で、これまでの考え方で財源を配分していくと大変な窮地に立たされるのは確実であると考ええる。この状況は、何としてでも回避しなければならぬ。そのためには、将来を予測した上で、現在計画策定に向け取り組んでいる公共施設等総合管理計画を確実に遂行すると共に、多額の滞納が存在する各種税金や私債権の徴収、そして、更なる自主財源の確保に向けての施策の展開等が求められる。仙北市が仙北市のままであるために、これからの財政運営について、市当局の所見を伺う。

答弁 市民サービスの維持向上を目標に、様々な財政指標を軸に将来にわたる事業費の予測も踏まえ

て、適切な財政運営を心掛けてきたつもりである。公共施設のあり方については、将来にわたっての財政負担を極力削減する方針であり、重要課題と位置づけて実体を

示したいと思っている。滞納処理については、様々な納付方法等を実施するなど最善を尽くしているが、目に見える徴収率の向上には至っていない。

2、産業振興基本条例について

質問 平成23年9月に、秋田県内では初となる本条例が制定されたから約4年が過ぎた。制定当初は話題を集め、市民の期待も大きいものがあつたが、年月が進むにつれ、本条例の存在意義が問われる声が聞かれるようになってきた。

企業誘致も大切なことではあるが、地域が地域として生き残り、真の地方創生を図るには産業振興基本条例は重要なウエイトを占めており、本条例第2条に定める事業者の存在が重要であり、事業者同士あるいは事業者と行政との更なる連携のもとに事業者の力を伸ばし、仕事や所得を生んでいく事が必要であると考える。本条例の意義を

再認識する上で、各項ごとに市当局の意識・理解度・取り組み状況を伺う。

答弁 第3条基本理念は、仙北市がさらに発展していくための思いを込めたものである。この条例があるとならぬとは格段の違いがあり、条例のさらなる運用に努めている。第4条市の責務においては、

事業主体における状況の変革が出来ていない、商工業関係者や事業者との意見交換や情報共有が不足しているという反省をしている。第5条基本的施策では、条例に基づいた事業計画はいまだにない

という状況である。これに関しては、市民の方々への浸透度が低いことが一因であると考えている。指摘の第10条、条例の検証、見直しの実施にもつながっていくものと考えている。

(佐藤大成記)



■誘客が期待される食彩町家館



■遊休施設・角館技能センター

クニマスの里帰りは大丈夫か。



議員 小林幸悦 翠巒会

市長 公式回答は出来ない状況。

岩瀬北野線の延伸計画と都市計画道路の見直しについて

質問 内川橋から横町橋までの整備計画区間が完成すれば、国道105号線までの区間は完成となるが、合併前の計画では、国道105号線よりさらにその先の大徳橋までが計画区間と認識しているが、その計画に変更はないのか。また、その区間の整備も早急に行うべきと思うがどうか。

答弁 延伸計画に大きな変更はない。その整備については、都市計画道路における事業効果の高い路線、箇所から優先順位をつけて整備をしていく予定でいる。

質問 現在事業中の区間は、角館総合病院のオープンまでには完成させたいとのことだが、計画どおり進んでいるのか。

答弁 平成27年度までの事業費ベース見込みでの推測では、完成は計画年度からずれ込むが、病院の完成と連動できるように予算確保に向けて国、県に対して強力に働きかけていきたい。

質問 都市計画道路沿線では、住宅建築等において多くの制約を受け、不利益を被る事例もあるようであるが、実現の可能性がないものや必要性がない都市計画道路に

ついては見直すべきと考えるがどうか。

答弁 長期にわたり未着手な路線や区間については、今年度において廃止、幅員変更、ルート変更等の見直しを行いたい。

伝建群の復元事業と施設整備及びお祭り会館(曳山会館)について

質問 庁舎整備計画が方向づけされれば、早急に「火除け」の復元の具体的な計画に入れると思うが、素案などの検討はしているのか。

答弁(教育長) ①防火機能を持たせての公園広場等の整備。②土塁の復元整備。③木戸門の設置の検討。の三つの案を主たるものとして検討している。今後、様々なアイデアを盛り込み、協議の上、整備に向けてさらに検討していく。

質問 弘道書院が建てられていた場所が見つかり、発掘調査が行われた。弘道書院の復元を望む声が多くあるが、その考え方は。

答弁(教育長) 復元に向けては、検討委員会や関係者と事業実施計画の内容を精査し進めていきたい。
質問 市に寄贈されている「岡田家」は老朽化が進み使用できない状態にあるが、母屋を解体し、庭園等を生かした公園として整備を

してはどうか。

答弁(教育長) 現在では解体等は考えていない。利活用については今後も検討していく。

質問 曳山行事は外町の行事で内町には馴染まないもので、建設するとすれば曳山会館の場所は現在の中町庁舎が適地と思うが、どのような考えでいるのか。

答弁 建設の是非も含め、財源や場所、規模、形態等検討しなければならぬ時期と認識している。

クニマス未来館(仮称)とクニマス確保について

質問 山梨県水産技術センターにおいて行われているクニマスの生態調査と増養殖状況によると、クニマスは生存力が低く飼育は難しいとのことであるが、クニマス未来館における展示・飼育は大丈夫なのか。また、展示できない状況でのクニマス未来館の整備はあり得ないものかと考えるが、そのような事態での対応等、稚魚の受け渡し等、山梨県側との協議は大丈夫なのか。

答弁 クニマス未来館の整備の目的は田沢湖の再生という大局的な意味合いから、中長期的な視野に立ち、整備計画は進めていく。

クニマスに関する増養殖等の情報は、担当者同士での共有は行われているが、稚魚の受け渡し等に関しては、公式回答は出来ない状況にあることをご理解いただきたい。

質問 秋田県では阿仁の内水面試験場においてクニマスの研究を行うとのことであるが、現時点での動きは。

答弁 クニマス受け入れのため、態勢強化を行うと担当者レベルでは協議している。

(真崎寿浩記)



■クニマスの生態展示は可能か？



阿部 則比古 議員

市内医療機関との連携を図れ。

市長 構築に向けて準備している。

医療連携がなっていない

質問 慢性的な医師不足を中心とした、いわゆる医療資源不足の中で市民に最善の医療を提供していくためには、まずは同じ行政体に属する市立病院と診療所の綿密な連携、さらには市内開業医との連携が非常に大切であるし、病院内にあつては診療科目を超えたチームプレーがなくては、市民の切なる付託に応えることは出来ない。市内の医療従事者の情報交換や交流がお互いの信頼の醸成と綿密な連携に不可欠だ。他の自治体では担当部局が色々苦勞してやっている様だが本市では医療局があらゆるが市立病院と診療所ですら密接な連携が取れていると言えない。今後こうした点をどうするつもりか伺う。



■地域医療に貢献する診療所

答弁 全く同感の思いで各種施策に当たっている。平成26年度の組織再編と、機構改革でも病診連携、さらに将来、医療と介護、予防事業を政策的にリンクさせるため医療連携政策監を市民福祉部に配置している。医療、保健、福祉行政を含めた仙北市医療行政協議会が、平成21年度から設置になっていて、健康フォーラムや勉強会等活発な活動をしている。この協議会が保健と福祉と学校保健と医療連携の4部門をセットして、各代表の先生方に熱心に活動して頂いている。また病院改革でも先生方から多くのご意見を頂戴し今の病院の姿になっている。さらに市立角館病院では大曲仙北医師会、大曲仙北広域市町村圏組合と協定して休日救急救命等の対応も行っている。今後包括支援センターや福祉部門との連携も今まさに進めており、地域包括ケアシステムの構築に向けて準備に入っている状況にある。

悪性感染症対策は大丈夫か

質問 韓国では中東から帰国しマーズコロナウイルス病を発症した男性患者への初期対応の失敗から1万6千人を超える隔離者と36名の死者を出し、やっと終息した。

本市は海外からの観光客も多く、こうした病原体がダイレクトに持ち込まれる可能性もある。具体的な防除体制ができてくるのか。

答弁（後藤医療局副管理者）

医療機関として来院者に陽性の疑いがあれば、発生地への渡航歴・居住歴・感染者への接触・診察・看護・介護等を確認する。陽性が疑われる場合は速やかに保健所に連絡して指示を仰ぎ、指定医療機関に搬送し、同時に県に報告して行政検査実施の適否を判断する事になっており、そこから絶対拡散させない準備はしている。

新統合庁舎の建設場所を再考せよ

質問 新統合庁舎を取り巻く様々な現況を勘案すれば合併特例債の充当出来る期限を逸してしまうと、その後の建設は財政上極めて困難になると推察される。一方で市が提案している現在の市立角館病院の管理棟を利用する案は市政に混乱を招くだけで目の目を見るところは到底思えない。「みんなの庁舎検討委員会」の答申場所に立ち返るべきだ。

答弁 「みんなの庁舎検討委員会」では財政面に配慮すると庁舎本来の役割や機能等の根本部分の



■利用方法が問われる角館病院管理棟

自由度に制約が課されるので、財政面の議論抜きの協議をお願いしたい。当時、角館病院の移転が正式に決まっていなかった事から、統合庁舎の候補地として考慮出来る環境ではなかったため国道46号線角館バイパス付近が適当との提言を受けた。

提言では、合わせて庁舎の役割・機能性・利便性・防災拠点の視点からも答申を頂いたが、これらについては、この度の庁舎整備基本構想に十二分に反映されたと思っている。

また、既存施設の有効活用による財政負担の軽減等、多面的な検討の結果として現状では最善の提案と認識している。

（門脇民夫記）

介護保険制度と高齢者の暮らしに心配りを。



共産党 平岡裕子 議員

市長 介護に不安を感じることがない様に取り組む。

介護保険制度と高齢者の暮らしに充実を

質問 医療介護総合確保推進法の制定により、要支援1・2と認定された方の予防給付が介護保険サービスの枠から外れ、要介護1・2認定の方は、特別養護老人ホーム入所基準から外れることになり不安を抱えた高齢者の対応のために高齢者福祉の充実をどのように図っていくのか。

答弁 今度は、地域支援事業に移行していくことになるが、介護に不安を感じることがないように、大曲仙北広域市町村圏組合介護保険事務所と連携して取り組みを再強化したい。生活支援体制整備事業については、生活支援活動の実績のある団体・個人の専門知識を有する方々で研究会を立ち上げて今年度中に協議体を設置したい。しっかりと対応していきたい。

質問 老人クラブの活動は、地域に根ざした生活支援活動ととらえることができ、助成金のおよそ半分が各老連の負担金に消えてしまふ。助成額の見直しはできないか。
答弁 高齢者を主体とする健康保持と生活支援という観点から、活動や役割が地域に不可欠な組織として大きな期待をしている。最近では、老人クラブに対して社会的な役割を担うという意識が大変高く

なってきたっており、公共の活動を行う団体としてとらえている。ご意見をしっかりと聞き、見直しも当然必要だと思う。

質問 市の事業の中で、非課税世帯で要介護4・5認定の方を対象に行なっている家族介護用品支給事業を、要介護3認定の方まで、助成金の拡大の見直しはできないか。弁当の配食サービス事業は、必要な人に届いているか。

答弁 このことについては、大仙市、美郷町とともに大議論になっている。協議の中でしっかりと協議したい。

弁当配食サービスは、200円自己負担いただければ受けることができる。必要とする人により届くように、仙北市社会福祉協議会と連携してやっていきたい。

質問 今年度は、月5000円が限度といわれていた介護保険料基準額が6100円になり、年金の1か月分が保険料となる実態である。国民健康保険のように法定軽減をされるべきと思うがいかがか。

答弁 金額の設定については大議論をした。他市町に比べ、高い設定はしたくない思いである。できるだけ軽減したい思いでの9段階である。理解してほしい。見直しには、様々な状況を考えて議論に臨みたい。

次期総合計画と市民の暮らしに活路を

質問 仙北市の基幹産業は農林業と言われながらも、担い手がない、交付金の削減、コメの低価格で暮らしは大変だ。兼業しながら農地を守り食料自給に努めている稲作農家の今後の暮らしはどのようになっていると考えるか。

答弁 稲作経営においては、農業法人や大規模農家による集積や大規模拡大による規模拡大による低コスト経営を目指す営農が主体になる予測もついている。規模が小さくても消費者ニーズを把握し農産物に付加価値をつけ、自らが販路を開拓している方もいる。新たな農業の糸口、切り口になるのかなという思いもある。

質問 児童生徒の通学路の状態がひび割れ・つぎはぎの道路が目につくようになり、自転車走行に危険を感じる。順次改修が必要と思うが計画について伺う。また、通学路に街灯も少なく子や孫の通学を心配しておられる方もいる。設置計画も伺う。

答弁 市全域に、道路の老朽化による舗装面のひび割れ等が多く目に付く現状にある。部分的であっても苦情を減らすためにも発見を早く行い、スピード感をも

って補修を心掛けた。街灯は、設置基準の見直しを望む声もいただいている。見通しの悪い通学路、学校近くのT字路、住宅と避難路を結ぶ付近などへの設置、市が所有するLED化の未整備500灯も改修を進めていく。

環境衛生について
質問 ごみ集積所の設置と改修費用の助成について伺う。
答弁 市内には556か所の集積所がある。これ以上増えるとは回取が大変である。設置は集落・町内で対応してほしい。改修費用の助成は検討中である。

質問 4月から改訂されたゴミ出しカレンダーは、不評な声が多く聞かれる。見直す考えはないか。
答弁 今年度から祝日・振替休日でもゴミ収集を行っている。前のカレンダーより改良できたと思っていたが、わかりやすいものに作り変えた。わかりやすいものに作り変えたい。(阿部則比古記)



■不評のゴミ出しカレンダー



公明党 熊谷 一夫 議員

地方創生、将来人口減、少子高齢化、若者定着にどう取組むか。

市長

企業誘致・産業振興を進め、たくさんの施策を展開したい。

地方創生、少子化対策について

質問 県が地方創生有識者会議に示した秋田版総合戦略の目標数値を基に、仙北市の将来人口形態、合計特殊出生率、結婚・出産・子育てする若者世代への具体的な少子化対策、地域経済分析システム（リーサス）を活用した総合戦略の策定をどう考えるか

答弁 市の将来人口ビジョンは、12月策定を目標に作業を進めている。市の人口は毎年5000人弱マインス傾向にあり、2010年2万9千人から60年には、1万432人に、64.77%の減少推計値となっている。（国立社会保障・人口問題研究所推計）

合計特殊出生率を2050年に2.5とするには現実的には厳しい目標数値と考えている。企業誘致・産業振興を進め、60年の人口減少率を50%以内にとどめる目標で、今たくさんの施策を展開しようという準備を進めている。

現在取り組んでいる結婚支援・子育て支援等に、国・県の制度も活用しながら雇用や出会い創出の事業強化などに努めていきたい。

地域経済分析システムを活用して現状分析を行い、仙北市総合戦略を策定し、従来の取り組みにと

られない効果的な施策の策定をしていきたい。

マイナンバー制度と活用について

質問 マイナンバー制度への取り組みと情報流出対策、更に窓口業務の「コンビニ交付サービス」についてどう考えるか。

答弁 個人番号カードの交付は来年1月からの運用開始に向けて進めている。特定個人情報保護法等の条例整備は次の定例会に提案する準備をしている。個人情報流出防止対策としては、基幹システムと情報システムを相互アクセス出来ないようにし、職員のセキュリティとモラル意識の向上に努めていく。

コンビニ型交付サービスの導入は、多額の初期投資費用が掛かる。日本郵便サービスの方が割安感があるとの分析もあるので、今後検討したい。

生活困窮者の自立支援について

質問 本年4月からの生活困窮者自立支援法の施行に伴い、生活保護に至る前に、人間としての自信と誇りを取り戻し自立できる様な支援策として何を行っているのか。藤里町社協では住民の戸別訪問を

実施し、113人を超える引きこもりが判明した。そこから一般就労に結びつける取り組みを行っている。又、支援モデル事業として取り組む湯沢市やNPO法人大仙親と子の総合支援センターの様な先進事例があるが仙北市はどう取り組んでいるか。

答弁 生活困窮者自立支援法の2必須事業と任意事業の5事業があるが、仙北市社会福祉協議会に委託して自立相談支援事業を行い、住居確保給付金は福祉事務所が直接実施している。

生活困窮者の現状把握が、大変重要な取り組みである事は理解している。相談窓口だけでなく、家庭訪問や面談等も実施している。市社協には相談支援員1名・就労支援員3名、福祉事務所に相談支援員1名を配置している。今年の4月から8月まで63件の相談が

あった。湯沢市、大仙市の様な積極的な活動できるように支援を高めていく。

行政は一人一人に生き生きとした生活・人生を営んで頂く応援者にならなければいけないという思いを持って進んでいきたい。

（高久昭二記）



■証明書交付サービス機

用語解説 地域経済分析システム（RESAS）…地方創生本部が地方自治体を支援する為に、地域経済に係わるビッグデータを収集し、わかりやすく「見える化（可視化）」するシステム。

馬で地域を活性化しよう。



仁政クラブ 佐藤 大成 議員

市長 そのアイデア大変興味深い。

馬を活用した地域づくり

質問 ハコモノに頼る政策ではなく地域の歴史・文化を尊重する上で馬を活用したまちづくりを提案する。戸沢・佐竹氏には勇猛な騎馬武将が多かったし、市内には駒ヶ岳など馬に由来した地名も多々ある。また、馬肉は別名「さくら肉」であり、市のイメージとも合致する。また、伝統ある角館高校馬術部の復活にもつながる可能性もある。是非とも進めるべきであると考えますがどうか。さらに、ふるさと納税の寄付金使途として馬に関連した事業を加えてはどうか。

答弁 馬を活用した地域活性化のアイデアは大変興味深い。実現のためには、馬の愛好者を増やすことが必要と感じる。まずは市民が馬と触れ合える機会を提供することが最初の一步と考え、秋田県馬術連盟や仙北市馬術協会とも相談したい。また、角館高校馬術部については、これまで関係機関に再興を申し入れてきた経緯はあるが、今も休部状態が続いている。しかし、現在角館高校2年の生徒が馬術連盟指導者の下で練習を継続しており、継続して馬術部の再開等について粘り強く取り組みを進めたい。ふるさと納税の使途についても今後検討したい。

総合計画アンケートに見る若者・子育て支援を問う

質問 市が行った総合計画アンケート中、若者・子育て世代が移転したいと考える理由の第1位は「働く場がない」であった。これは魅力的な職場がないとも分析されるが、市では対応策も含めどう捉えているのか。さらに、就業支援についての満足度も低いが、この理由をどう分析しているのか。また、移転したい理由の第2位は、「娯楽の場がない」であったが、こうした世代がどのような娯楽の場を求めているのかについて把握し、そして、課題についての対応策は検討しているのか。

答弁 若者・子育て世代が「働く場がない」と回答した内容については、大きく分類すると、希望する職種がないという意味と、希望する条件に合った職場がないという意味が推測される。若い世代は、自らが望む職種への就業意欲が強いことや、日常生活においても出費の多い世代であり、可能な限り労働に対する対価が多い就業先を希望するという側面があると分析している。これまでも若者・子育て世代が就業を望むような企業を増やすために、ホテルや工場の新設・増設、市内事業者の起業や規

模拡大への支援を行うなど努力を

続けている。今年度からは、地方創生型先行交付金を活用した中小企業活性化支援事業であったり、工場用地の造成が終了している食品加工事業の早期の立ち上げであったりと、この他にも様々な取り組みも始めている。さらには、地方創生特区の規制緩和によつて農業生産法人の設立も認可されたなどの実例が出てきたため、特区ならではのメリットも最大活用したい。また、就業支援に対する満足度が低かった結果については、これまでの施策で何らかの利益を受けた実感に伴わない、または対象者が限定的ということ等がその要因ではと分析している。今後対応を急ぎたい。

「娯楽の場がない」ということについては、仮に不足しているとしても、それを自治体が整備するものなのかという側面もある。しかし、高校生などの意見によると、「スポーツ施設の充実」等が挙げられている。また、これについては、今後中学生にも対象を広げ調査したい。第2次総合計画、や地方版総合戦略に反映させるためにも各世代、各種団体等の意見を聞きながら進めたい。

ケーブルテレビ開設を

質問 現在、TBSやテレビ東京系列は本市で視聴することはできない状況であるが、ケーブルテレビを導入すれば、こうした地方間格差を是正できる。また、その他防災・地域情報の発進にも役立つ上、定住促進の効果もあると考えますがどうか。

答弁 平成18年の市議会一般質問でも議論となったが、その際、工事費や維持費が大きいことが課題とされた。ケーブルテレビ導入のメリットは認識しているが、現時点で市町村等が行うケーブルテレビ設置に対する国等の財源措置は無く、また、スポンサー確保についても難しいため大変厳しい。一自治体よりも広域的な取り組みをすることが実現の近道かと考える。

(高橋 豪記)



■まちづくりに馬を活用しよう

条例案2件▶可決

仙北市個人情報保護条例の一部を改正する条例
マイナンバー制度施行でマイナンバーを保護するための改正。

仙北市公益法人等への職員の派遣等に関する条例の一部を改正する条例
再雇用職員を公益法人等へ派遣するための改正。

質問 個人情報の流出対策と市役所での内部規定について。
答弁 個人情報が入っている基幹系とインターネット等の情報系とは完全に分離され、外部からのアクセスにより個人情報が漏れることはない。内部規定については職員へのセキュリティポリシーがあり、個人情報の漏えいがないよう職員のとるべく行動が示されている。

県との事務委託規約▶可決

仙北市と秋田県との間の行政不服審査会の事務の委託に関する規約
行政不服審査会に関する事務を秋田県に委託する規約の制定。

質問 他市町村の委託状況と行政不服審査申請の窓口について。
答弁 秋田市を除く県内全市町村で県へ委託すると伺っている。また、行政不服審査申請の窓口は仙北市で行う。

一般会計補正予算

主なもの

地域総合整備資金貸付金 1億8,000万円

メガソーラーへのふるさと融資。

通知カード・個人番号カード関連事務委託費 1,004万円

マイナンバー制度施行事務委託費、国からの交付金。

公共施設等総合管理計画等作成費 減額▲2,184万円

28年、29年に繰り延べ延長された為の減額。

街灯費 394万円

角館横町橋街灯整備費。

質問 地域総合整備資金貸付金について、先般発生した茨城県常総市の水害で被害を受けた太陽光発電設備は、有害物質が出たとの話を聞かない事から危険なものでないか、問題点は地元の理解が得られていないところにある。市が地域と事業者の間に入って協定を結ぶところまで持っていくべきでないか。

答弁 住民からの指摘事項については、不安解消に向け情報を共有し理解が得られるよう、事業者から文書を地域に出したいとのことである。様々な点ですれ違いがあったことは反省している。現在、集落内の意思疎通ができない状況にあるが、理解を得る為に誰を相手にどのような協定を結ぶかという点も事業者と共に配慮、検討をしていきたい。

質問 横町橋街灯整備費について、横町橋は中学生の通学路となっており工事中は街灯が無く暗い状態なのか、また、明るさは十分か。

答弁 街灯は新しい場所に設置するので、新しい街灯点灯後に既存の街灯を撤去するので暗い期間はない。また、これまで街灯は車道側2基、歩道側1基で車道を中心に照明していたが、今回の工事で車道と歩道にLEDの街灯を設置するので歩道も明るい。



■整備される角館横町橋街灯

生保内・田沢財産区特別会計補正予算▶可決

主なもの ●生保内財産区▶分収林組合交付金▶222万円 ●田沢財産区▶森林総合研究所造林保育費▶490万円

平成26年度特別会計歳入・歳出決算▶認定

●集中管理特別会計 ●生保内財産区特別会計 ●田沢財産区特別会計 ●雲然財産区特別会計

質問 平成25年度と比較して人件費が減額となっているが、職員の減少が主な要因か。

答弁 人件費が1億1,690万円の減額となっており、職員19名の減少が主な要因となっている。

請願

○伝建群保存整備計画のうち火除け木戸門復元の早期実現を求める請願書▶採択
○メガソーラー「大規模太陽光発電」事業について▶継続審査

請願者、事業者の出席を求め両者の説明後、各委員からの質疑を行った。その結果、お互いの誤解や意見の食い違い等があり、市が両者の間に入って理解の促進を図るべきとし、委員会としても事業の調査をするために継続審査とした。

用語解説 ふるさと融資…地域振興を図るため民間事業活動に、県または市町村が地域総合整備財団(ふるさと財団)の支援を得て資金を融資する制度。

市民福祉常任委員会

平成26年度市立病院決算は約1億6,500万円の赤字 依然厳しい市立病院経営～医師確保と安心できる医療の提供を～

平成26年度市立病院の決算審査が行われ認定されました。慢性的な医師・看護師不足など、自治体病院を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。現在新角館病院の建設工事が進められておりますが、市議会では、今後もより市民に信頼される病院であるために、安定した医療の提供を求めて参ります。

質問 外来の待ち時間が長い。患者さんは忘れられているのかと思う場合もあるが対策は？

答弁 どうしても待ち時間が長くなる診療科もあるが、看護師から声をかけるなど対応に努めている。しかし、全ての患者に行きわたっているとは言えないため、今後も解消に向け努力する。

■平成26年度 市立病院事業 決算

	角館病院	田沢湖病院	医療局	合計
医業収益	36億9,589万円	6億2,954万円	0円	43億2,543万円
医業費用	39億8,911万円	8億1,782万円	88万円	48億780万円
医業利益	△2億9,321万円	△1億8,828万円	△88万円	△4億8,237万円
医業外収益	3億5,022万円	1億2,600万円	1,001万円	4億8,622万円
医業外費用	1億2,525万円	4,361万円	5万円	1億6,891万円
通常利益	△6,825万円	△1億590万円	908万円	△1億6,506万円

条例・補正予算 ～こんな内容を決めました～

認可保育園等管理費

121万円

市内保育園の修繕などにかかる費用。

塵芥処理費

863万円

市内最終処分場3箇所の水質検査計器の不調による更新費用。

消費生活相談事業費

△9.5万円

消費相談係による消費者相談の費用。

仙北市手数料条例の一部を改正する条例

マイナンバー制度に伴い、カード紛失時の再発行手数料を定めるもの。

仙北市幼保連携型認定こども園条例を廃止する条例

28年4月1日から「だしのこ園」と「神代こども園」が社会福祉法人運営になることによる条例改正。

質問 保育所等の修繕だが、財政上すぐ対応できていない部分もあるのではないかと？

答弁 今回の修繕は以前からのものがひどくなったため行う。今後も重要性の高いものから順次修繕していく。

質問 消費生活相談員は角館庁舎に配置されているようだが、田沢湖・西木庁舎ではどういった対応をしているのか？

答弁 電話があった場合は角館庁舎に転送しているが、相談内容によって臨機応変に対応したい。

市内認定こども園 「だしのこ園」「神代こども園」

28年4月1日から

社会福祉法人「はなさき仙北」が運営

市内幼稚園・保育園の法人化運営を実施するため、10月1日、その受け皿となる社会福祉法人「はなさき仙北」が設立認可されました。28年4月からは「だしのこ園」、「神代こども園」が「はなさき仙北」の運営となります。より充実した保育教育環境を構築して頂くことに期待します。

質問 法人運営に切り替わると、保育・教育の内容はどのようなのか？

答弁 市立の際のサービス水準を落とすことはしない。病児保育や土日の保育等についても今後検討する。



■だしのこ園



■神代こども園

平成26年度 特別会計決算 (歳出総額)

- ◆ 国民健康保険 35億6,949万円
- ◆ 後期高齢者医療 2億9,234万円
- ◆ 介護保険 4億4,562万円

認定

産業建設常任委員会

企業誘致案件に議論集中～(株)食品工業の早期誘致を～

9月定例会の産業建設常任委員会では企業誘致案件について議論が集中しました。市では青森県で大規模な食品加工工場を営む(株)食品工業を誘致するため、生保内黒沢地内に工場用地

約30,000㎡を取得し、先ごろ造成工事が完了しておりますが、委員会では早期誘致を求めて次のような質疑や意見が出されました。

質問 誘致の進捗状況や課題、締結済みの覚書の扱いや今後のスケジュールはどうなっているのか？

市長 8月に企業側社長が県庁を訪れ副知事と会談するなどこれまで数回打合せをしている。県も、これまでは設備投資費用の2割まではしか受けられなかった助成を3割にするなど制度改正を行っている。社長からは今後の課題として数点挙げられている。まずは、80人体制の工場を開始するにあたり、まだ用地が不足しているという点である。ただし、これについては、市が再び用意するというものではなく今後企業側が対応することで協議が完了している。排水等については、地元の田沢湖漁協と継続的に協議をすることで双方確に協議をすること、従業員認している。また、従業員のある自治体が進出企業のために従業員用住宅を整備した事例を出されてはいたが、市としては空き家の活用を提案している。また、企業側は、現在も他県からの引き合いがあるということも踏まえて、国等から、事業費の半分程度の助成をもらいたいと考えている。関係機関に相談したところ、「地域経済活性化支援機構」の活用を提案されている。これは、秋田県内では実績はまだないが、地元金融機関が投資することにより資金調達を行う制度であると伺っている。社長からは、一旦は仙北市側で腰が折れて資金調達については白紙に戻ったが、この点で調整がつけば、すぐにでも話しを再開すると言われている。また、輸送については、青森工場からは1日で首都圏まで行けるものが、仙北市からは4日かかる見込みであり、今後の方向性としては、盛岡、水沢、北上などに施設を設けて自社での運送を検討しているようである。締結済みの覚書に進出期限は明記していないが、互いに一定の要件は出尽くした状況であるため、今後期限を区切って協議に臨みたい。

条例・補正予算 ～こんな内容を決めました～

仙北市簡易水道事業の設置等に関する条例の一部改正

西明寺地区簡易水道を山谷川崎地区の一部に延伸するための条例改正。

相内潟小規模水道管理運営費 248万円

相内潟簡易水道の水位計の更新。

有害鳥獣駆除事業費 100万円

クマ等の出没が多発しているための駆除費増額。

企業誘致対策事業費 434万円

(株)食品工業誘致予定地付近の地下水調査他。

冬期交通対策費(除雪費) 3億1,432万円

冬期間の道路除雪にかかる費用。

住宅リフォーム促進事業費補助金 361万円

住宅をリフォームする際の補助金。

農業用施設災害復旧費 1,924万円

7月の豪雨による農業用施設の被害に対する復旧補助。

碓氷川(西明寺地区) 排水対策に関する請願を採択

度重なる水害により、広範囲に被害が及んでいる西明寺地区の碓氷川周辺の排水対策を求める請願書が審査され、委員による現地視察を経て採択されました。市や関係機関に対し抜本的な対策を求めて参ります。



■碓氷川氾濫による水害の様子

平成26年度 特別会計決算 (歳出総額)

- ◆ 下水道事業 12億1,938万円
- ◆ 集落排水事業 3億5,913万円
- ◆ 浄化槽事業 1億1,143万円
- ◆ 簡易水道事業 7億7,510万円



平成26年度 企業会計決算 (事業収益・事業利益)

- ◆ 温泉事業 3,295万円 (△42万円)
- ◆ 水道事業 3億1,293万円 (493万円)

緊急!!

2つの決議案を可決!!

企業誘致の 早期実現を求める決議

市民にとって働く場の確保は切実な課題であり、地方創生の基盤とも言える本市の最も重要な政策課題の一つである。

仙北市は、企業の誘致のために、本年7月に工場用地の造成を完成し、市議会でも、企業進出の実現に向け、限りある血税の投下が有益となるよう真剣に議論し続けている。

したがって、喫緊の課題である地域における雇用創出の取り組みとして、市議会は、市長に対して、早期に企業誘致の実現を強く求めるものである。

以上、決議する。

平成27年9月30日
仙北市議会

市職員の 不祥事に関する決議

9月28日に、本市職員が最終処分場の水処理業務において、取賄の容疑で逮捕された。

本定例会の会期中には、市民税等のデータ処理の誤り、平福記念美術館のマスターキー紛失など、度重なる事件により、市民の信頼を大きく失墜させる不祥事が相次いでいる。

これまでに、過去の事件を教訓に、再発防止に取り組んでいるにもかかわらず、かかる一連の事件が発生したことは、市民の信頼を再び裏切る事態であり、市民の憤りは極限に達している。極めて遺憾である。

したがって、市議会は、市長に対し、猛省のうえに、以下の徹底を求める。

- 1 不祥事の根本的な原因の究明
- 2 統括責任において不正を根絶するための管理体制の一層強化
- 3 職員の職階制に基づく責任の自覚

以上を踏まえ、今一度、公正で適切な市政運営を肝に銘じ、一刻も早い市民の信頼回復に応える方策を示すよう強く求める。

以上、決議する。

平成27年9月30日
仙北市議会

産業建設常任委員会 現地視察

9月定例会で、産業建設常任委員会に付託された「碓沢川排水対策に関する請願」を審議する為に委員会で現地視察を行った。

請願書によると降雨の度に山林からの雨水が集中して大氾濫が繰り返して起きている。

その大量の水が宮田水路で排水しきれず、堤防を越えて上荒井地区や門屋地区の住宅、更に、東前郷地区まで水害の被害が及んでいる。毎年繰り返される事態に各地域から強い対策要請の声が上がっている。平成22年には7月30日・8月14日と立て続けに被害を受け、平成23年度には調査に取組んでいる矢先の6月23日に豪雨災害が発生してしまい、床上、床下浸水、農作物、農業被害等を受けた。

現地視察には度々被害を受けた住民も参加し、水害の状況と排水対策を切々と訴えていた。市としても、排水改良や側溝改良工事等を行ってきたとの事だが、碓沢川上流から国道105号線を横断し、西明寺小学校下流域までの広大な面積と被害地域である。県や国とも相談しながら、抜本的な災害対策を講ずる必要があることを痛切に感じてきた次第である。

地域住民が安心・安全に暮らせるように防災・減災対策をしっかりやるのが、行政の一番の仕事である。

課題は多いが、やれるべき事は早急に手を打つようにならなければならないのではないか。雨が降る度に起きる被害を最小限に食い止める為に…。

(熊谷一夫記)



■宮田頭首工で説明を受ける委員会メンバー

控室

9月29日午前2時頃緊急連絡のFAXが届いた。内容は、市役所職員が取賄の疑いで逮捕され、県警が捜査を行っているというもので、午前3時から記者会見を行うというものであった。翌朝、事務局より、緊急の全員協議会開催の連絡が入る。

午後3時。開会前の控室では、朝の新聞報道や各議員への電話等の情報を元に、容疑者の動向、以前から指摘してきた市長や市幹部の統率力の無さに対する批判が相次いだ。「二つ良い事があれば必ず二つ、三つ悪い事が続く。まして今回は、公務員として絶対にあつてはならない事だ。」と興奮気味に話す議員もいた。

全員協議会では、贈収賄事件に関する経過報告についての報告があり、市長以下参与と全員の陳謝の後で、「職員の内部統制、緩みが目に付く」との厳しい指摘もされた。

公務員として、奉仕者としての自覚の足りなさを嘆くより、市役所内部の統制の甘さ、責任倫理の無さがもたらすものが、多くの不祥事続きの原因ではないだろうか。

合併10周年記念式典では、県知事や県会議長から心配して激励のあいさつを頂いた。10年後の仙北市の未来へ向けて波瀾のスタートとなった。

職員の中には深夜まで必死で頑張っている方もいることは事実だが、一連の不祥事の一事が万事である。

【市民の信頼を取り戻す為】市の将来に対する責任を果たす為【に、どれだけ労苦を惜しまず、真剣に、誠実に業務に邁進する人間を創出できるかが市役所改革の鍵となるだろう。

(熊谷一夫記)

市議会全員協議会

会期中に開催された 2回の全員協議会についてのご報告

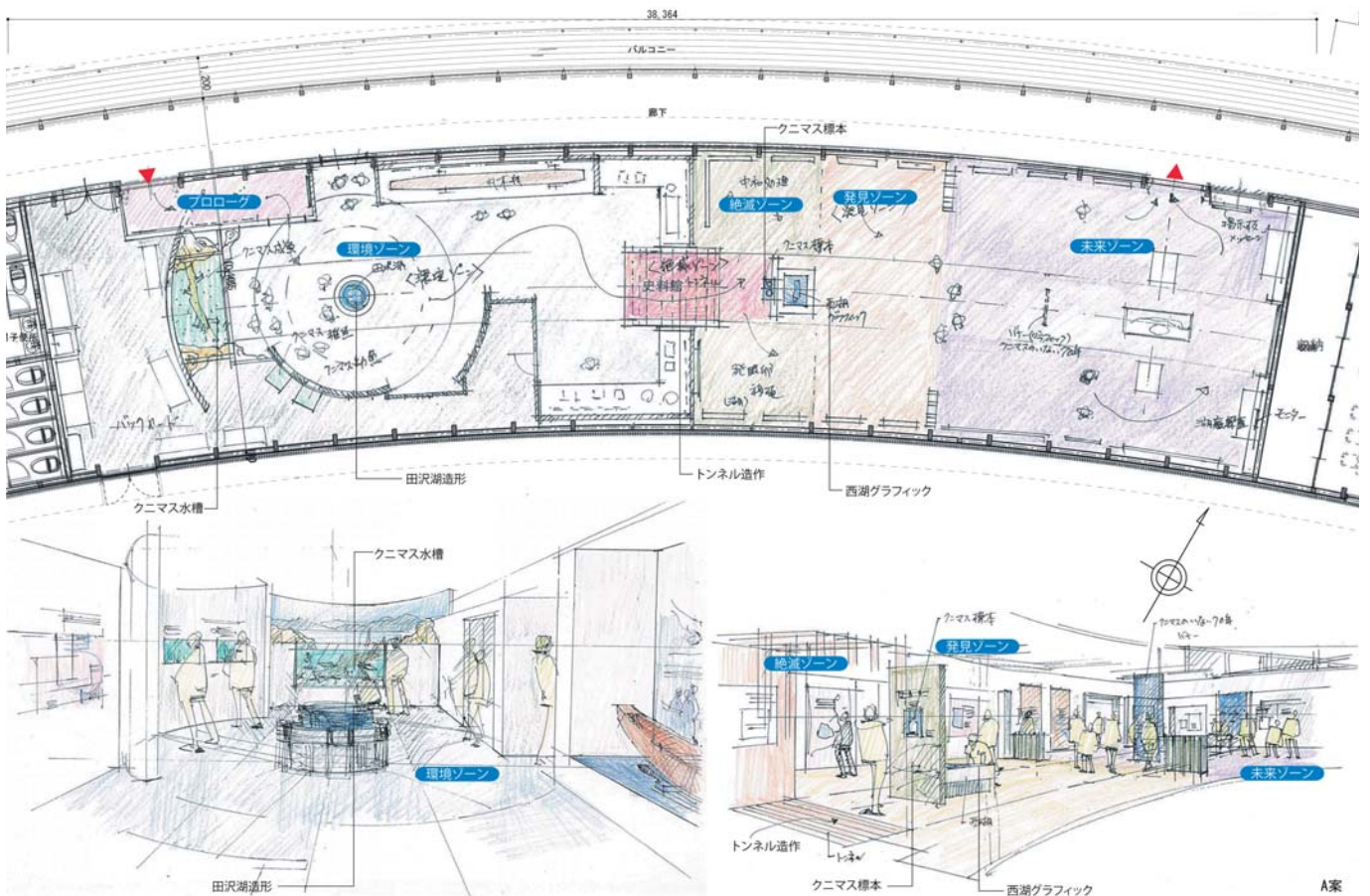
9月26日

田沢湖再生クニマス里帰りプロジェクトの経過

9月26日、秋田県との協働プログラムとして市がこれまで進めている「田沢湖再生クニマス里帰りプロジェクト」についての経過説明のため、議会全員協議会が開催されました。

クニマス未来館の設計や、田沢湖の湖底調査などについて報告されています。田沢湖大沢地区に来春着工予定

(2017年春開館予定)のクニマス未来館は、現在実施設計が行われています。山梨県からクニマスを譲り受け、水槽で飼育する他、田沢湖の歴史やかつてのクニマス漁に関する資料なども展示する運びとなっています。また、秋田大学等の研究室も設置し、田沢湖再生やクニマスに関する研究が実施される予定です。



2017年春オープン予定のクニマス未来館(イメージ)

9月29日

市職員の贈収賄事件に関する緊急報告

9月29日、緊急の議会全員協議会が招集され、門脇市長より、29日未明に贈収賄容疑のため市職員が県警により逮捕された事件について経過説明がなされました。

内容は次の通りです。市議会では、翌日30日の本会議で原因究明と再発防止を求める決議を全会一致で議決しました。

これまでの事件経緯について(門脇市長より)

- ◆ 29日深夜12時頃、警察から仙北市市民福祉部市民生活課環境保全係の金谷頼輝係長を収賄の容疑で逮捕したと連絡があった。
- ◆ 逮捕容疑は、市が発注した最終処分場の水処理業務委託で、テーケー・アクティブ株式会社の古山徹社長から国内旅行代140万円の供与を受けたというもの。
- ◆ 同時に関係各所に家宅捜索に入りたいので、立会いの職員を出してほしいという要請があり、これに対応した。市の家宅捜索は、環境保全センター、角館庁舎、田沢湖庁舎の3箇所。
- ◆ 仙台市青葉区に所在するテーケー・アクティブ株式会社は、仙北市内の最終処分場3箇所と環境保全センターなどで、汚水の水処理業務に当たっていた。平成25年から5年契約の長期委託を市の随意契約で締結しているが、この管理業務を受託した見返りとして、今年と昨年の2回にわたり140万円相当の国内旅行代金を供与した疑いと聞いている。
- ◆ その後、午前3時から西木庁舎において、緊急記者会見を行っている。市長、副市長、総務部長、市民福祉部長が対応した。新聞5社、テレビ局4社が参加して4時頃まで記者会見を行った。
- ◆ 午前8時から部長等会議を緊急に開催して、経過の報告と今後の対応等を確認した。その後、全職員に対し、服務規律の確保と綱紀粛正について、回覧文書にて発信し、注意を促している。
- ◆ 午前9時までには県警の捜索が終了している。県警に押収された資料は、田沢湖庁舎で290件、角館庁舎で70件、環境保全センターで368件となっている。
- ◆ 午後1時30分からは最終処分場3箇所の捜索に入るということで、これについても担当職員が立ち会っており、捜索は終了している。
- ◆ 押収された書類が多数にわたっており、市として、今回の事案に関係する事項の確認ができない部分が多々ある。現在、捜査が進行中の事件であり、また関係書類が押収されている中で、憶測等での発言は好ましくないという判断から、報告は現状で知り得ている範囲のものである。
- ◆ 今後、市として再発防止策の検討と合わせ、随意契約の課題の洗い出しなどを行う必要があると考えている。まずは捜査への全面協力をを行いながら、捜査の進展にもよるが、逮捕された職員に対する処分も検討しなければならない状況にある。
- ◆ 事件の発生で、市民の皆様に対し、大変なご心痛と、行政に対する不信感を与えてしまったことは、本当に残念である。心からお詫びをしなければいけない事態である。本当に申し訳ありませんでした。



議会報告会開催のお知らせ

より多くの市民の皆様のご参加をお待ちしております。
皆様お誘い合わせの上、ご参加ください。

■日時・会場・地区名

日時・会場	地区名	会場名	担当班
11月 9日(月) 19時より	雲沢地区	雲沢集落センター	1班
	桜木内地区	桜木内地区公民館	2班
	神代地区	神代就業改善センター	3班
11月10日(火) 19時より	白岩地区	白岩集落センター	1班
	田沢湖地区	田沢湖開発センター	2班
	中川地区	中川集落センター	3班
11月11日(水) 19時より	田沢地区	田沢集落センター	1班
	角館地区	角館交流センター	2班
	西明寺地区	西木公民館	3班

■班編成

1班	2班	3班
八柳良太郎	阿部則比古	稲田修
伊藤邦彦	小林幸悦	高久昭二
安藤武	荒木田俊一	真崎寿浩
黒沢龍己	田口寿宜	小田嶋忠
熊谷一夫	高橋豪	大石温基
佐藤大成	平岡裕子	門脇民夫

編集後記

曳山の凄惨な事故と市役所職員の収賄容疑による逮捕、及びそれにまつわる市役所の家宅捜索と二度の激震に大揺れした会期だった。

一つの大きな事故や事件の背後には多くの小さな事故・事件や予兆があると言われる。組織を管理し、指導の任にある者はそうした予兆を嗅ぎ分ける「嗅覚」と洞察力と不断の努力が必要とされる。

いずれの事案も慢心と無知と放置が招いた結果と指摘されても抗弁出来ないだろう。人間は基本的に怠惰と慢心と我欲に流れるように設計されているとも言われる。そうした人間の持つ煩惱に抗するには一定の倫理観や道徳規範を遵守しようとする教育による動機付けと、組織内部の相互牽制と相互監視がきっちり働かなければ人間の作る組織は持続的に健全性を保てないといえる。

組織が大きければ大きい程その中で緊張感を持続的に保持させるには、あらゆる生物が見事な免疫力で組織を壊死から防御している様な免疫機構が不可欠であり、それがなければ信頼のおける自浄作用は期待出来ない。

性善説的な思想と思考による「タガ」が外れた状態では、免疫力どころか、いたずらに事故や事件を誘発し、犯罪者を作ることもなかりかねない。今回のケースは論じるに値しないほどのお粗末な事例であり、すべての関係者に猛省と抜本的な改革を強く期待したい。

(阿部則比古記)